



朱三学校だより

特別号

全国学力・
学習状況調査
結果特集



令和7年10月吉日
京都市立朱雀第三小学校
校長 畠澤 啓太郎

Tel 312-3203

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/suzakudai3-s/>

学校教育目標

自ら考え行動し よりよい姿をめざして

なかまと共に力を高め合う子の育成

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月17日に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。その結果から、学力の様子や生活習慣についてなど、本校の子どもたちの状況をお伝えします。



総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数、理科共に、全国・京都府平均を上回る結果でした。また、無回答率も低く、どんな難しい問題も最後まで粘り強く考える姿勢が育っていると考えます。

国語科より



ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回っています。「書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える」問題（設問2-1）では、全国・京都府平均より大きく上回る結果が見られました。文章の構成を考えるためには、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりすることが大切です。

その一方で、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題（設問2-4-1）では、全国・京都府平均を下回る状況が見られました。あついの「あつい」を漢字で書く問題でした。あついには、熱い、厚い、暑いなど字があります。文の中で正しく漢字を書くことに課題が見られました。

算数科より



ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回っています。中でも「目的に応じて適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題（設問1-2）では、全国平均と比べて26ポイント上回り、「自分の考えを表現する力」がついていることが分かりました。

その一方で、「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉える」問題（設問3-3）は全国・京都府平均を若干下回りました。

0から1までが3等分されていることから1/3であることとらえることができていますが、0から2までが6等分されていることから5/6と誤って捉えていると考えられました。

理科より



ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回りました。特に、「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識を問う」問題（設問2-4）は、全国・京都府平均より大きく上回っていました。「知識・技能」の問題は全国・京都府平均より高い問題が多く、「知識・技能」の力がついてきていることがわかりました。

その一方で「結果」や「問題に対するまとめ」を基に、他の条件での結果を予想して、表現する」問題（設問1-3）では全国・京都府平均を若干下回りました。そのため、一つの問題を解決するだけにとどまらず、獲得した知識を基に、科学的な根拠のある予想をし、問題を解決することを大切にしていきたいです。

児童質問紙調査から

本校では、学校教育目標を「自ら考え行動し よりよい姿をめざして なかまと共に力を高め合う子の育成」京都で一番素敵な学校をめざして～みんなの well-being の実現～としています。それに関わる設問、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」では（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）と回答している児童の割合が、約94%で、全国・京都府平均を上回る結果でした。また、「自分には、よいところがありますか」の設問では、（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）と回答している児童の割合が、約89%で、全国・京都府平均を上回る結果でした。さらに、両設問とも、当てはまると回答した児童の割合も全国・京都府平均を上回る結果でした。これらの結果から児童はwell-beingの実現へ向けてよい傾向であると分かりました。

本校で＜育成したい資質・能力＞として「対話力・課題解決力」を挙げております。それに関わる設問、5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて次のことはあなたにどれくらい当てはまりますかの

(2) 分からないことがあった時に、すぐに調べることができる

(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

では、（とてもそう思う・そう思う）と回答した児童の割合が全国・京都府平均を上回っていました。これらの結果から「対話力・課題解決力」の育成に向けてICT機器を有効に活用して学習できていることが分かりました。

一方、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」の設問で、（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）と回答している児童の割合は、全国・京都府平均を下回る結果となっていました。

これらの結果から今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、GIGAスクール構想の更なる取組の推進を行っていききたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題



本校では、＜育成したい資質・能力＞として「対話力・課題解決力」を挙げており、それらの育成に向けて日々の授業を進めています。今回、ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回ったことから、1年生からこれまでの日々の授業で大切にして取り組んできたことが積み重ねとなり、成果として表れてきたのではないかといえます。

しかし、全国・京都府平均を上回っているものの全員が正答しているわけではありません。児童の学力の育成には、本校で＜育成したい資質・能力＞「対話力」・「課題解決力」が大きく関わっており、6年生だけで育つものではありません。今後も学校全体の課題ととらえ日々の授業はもちろん、家庭学習や読書タイム、スキルタイム等、学校の様々な取組と連動させ、ご家庭とも連携して取り組んでいきます。

保護者の皆様へ

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくために実施しています。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着し、さらに伸びていくものです。また、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が、その基盤となります。今後とも引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力いただきますようお願いいたします。